

エコアクション2.1 環境活動レポート



(平成26年6月～平成27年5月)



株式会社フジタ建設コンサルタント

取組の対象組織・活動

(1) 名称及び代表者名

株式会社フジタ建設コンサルタント
代表取締役 藤田 定吉

(2) 所在地

本 社 〒771-0204 徳島県板野郡北島町鯛浜字原87-1
阿南営業所 〒774-0017 阿南市見能林町青木148-7
徳島営業所 〒771-0136 徳島市川内町平石古田261

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 管理部部長

杉山 孝一

TEL:088-698-2155

E-mail koichi-sugiyama@fujitacc.co.jp

担当者 管理部 総務課 主任

豊崎 純司

TEL:088-698-2155

E-mail junji-toyosaki@fujitacc.co.jp

(4) 事業活動の内容

一般公共構築物に関する設計、測量、調査及び補償業務

登録事業名	登録番号
測量業	第13-1717号
建設コンサルタント	建26第453号
地質調査業	質24第1653号
補償コンサルタント	補25第189号
一級建築士事務所	第11096号
計量証明事業所	第75・76・86号

(5) 事業の規模

設立年月日 昭和41年6月1日
資本金 4千万円
売上高 10億6千5百万円
従業員数 87名
延べ床面積 1,570m²

(6) 事業年度

6月～翌年5月

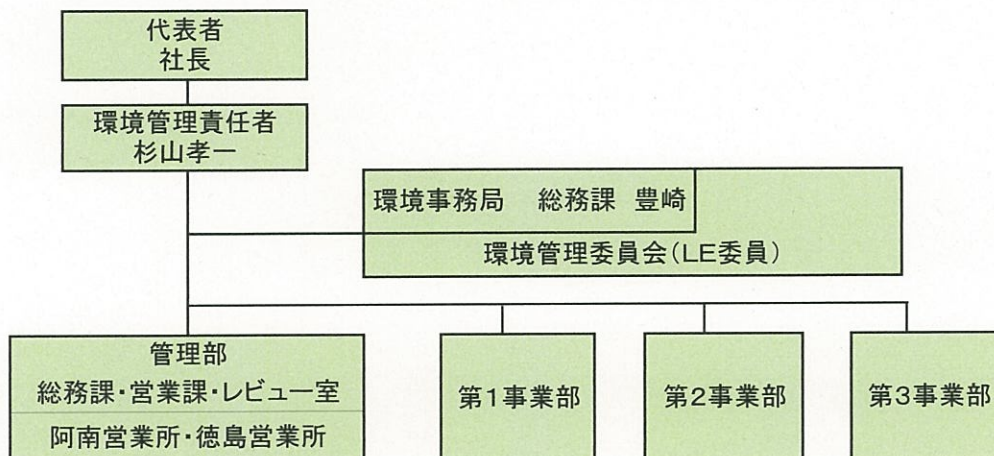
(7) 認証登録対象範囲

全社・全組織

(8) レポートの対象期間及び発行日

対象期間 平成26年6月1日～平成27年5月31日
発行日 平成27年7月1日

株式会社 フジタ建設コンサルタント 実施体制図及び役割・責任・権限表



	役 割 ・ 責 任 ・ 権 限
代表者(社長)	- 環境経営に関する統括責任 - 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 - 環境管理責任者を任命 - 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 - 代表者による全体の評価と見直しを実施
環境管理責任者	- 環境経営システムの構築、実施、管理 - 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 - 環境目標・環境活動計画書を承認 - 環境活動の実績集計を承認 - 環境活動の取組結果を代表者へ報告 - 環境活動レポートの承認 - 是正、予防処置の勧告
環境事務局	- 環境管理責任者の補佐 - 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 - 環境目標、環境活動計画書原案の作成 - 環境活動の実績集計 - 環境関連法規等取りまとめ表の作成 - 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 - 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 - 環境活動レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	- 自部門における環境経営システムの実施 - 自部門における環境方針の周知 - 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 - 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 - 特定された項目の手順書作成及び運用管理 - 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 - テスト、訓練を実施、記録の作成 - 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
環境管理委員会 (LE委員)	特定された項目の運用管理及び記録の作成
全従業員	- 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 - 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

環 境 方 針

<基本理念>

我々は、自然と人間の調和をめざし、企業活動の一環として社会的責任を果たすとともに地域社会の住みよい生活環境創りに貢献する。

また、企業活動において、環境負荷の低減や環境に配慮した活動に取り組み、自主的、積極的な継続的改善に努める。

<行動指針>

具体的に次のことに取り組むものとする。

- ①電力・自動車燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ②廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）の推進
- ③水資源の節水
- ④事務用品のグリーン購入
- ⑤環境関連法規制や徳島県条例その他の遵守
- ⑥ 環境配慮型の設計
- ⑦会社周辺の道路・河川の清掃活動の推進
- ⑧環境方針を全従業員に周知徹底し、環境活動レポートにより公表する

制定日：平成23年2月1日

改定日：

代表取締役 藤田定古

環境目標

1) 単年度目標

項目	単位	基準年	目標
		H25.6 ~ H26.5	H26.6 ~ H27.5
CO2 排出量	Kg-CO ₂ / 年	133,289	132,800
電力使用量	MJ / 年	1,863,237	1,857,600
燃料	MJ / 年	918,545	915,700
上水使用量	m ³ / 年	1,458	1,450
廃棄物排出量	t / 年	10.2	10.1
グリーン購入量	品目	5	5
事務用紙使用量	t / 年	4.9	4.8
環境配慮型の設計	件 / 年	7	7
地域貢献	回 / 年	5	5

※ 削減率は、毎年0.3%とした。

※ 電力使用量 排出係数は、0.378Kg-CO₂/Kwhとした。

2) 中長期目標（3～5年先）

項目	単位	H25.6 ~ H26.5	H26.6 ~ H27.5	H27.6 ~ H28.5	H28.6 ~ H29.5	H29.6 ~ H30.5
		基準年	目標	目標	目標	目標
CO2 排出量	Kg-CO ₂ / 年	133,289	132,800	132,400	132,000	131,600
電力使用量	MJ / 年	1,863,237	1,857,600	1,852,000	1,846,400	1,840,800
燃料	MJ / 年	918,545	915,700	912,900	910,100	907,300
上水使用量	m ³ / 年	1,458	1,450	1,440	1,430	1,420
廃棄物排出量	t / 年	10.2	10.1	10.0	9.9	9.8
グリーン購入量	品目	5	5	5	5	5
事務用紙使用量	t / 年	4.9	4.8	4.7	4.6	4.5
環境配慮型の設計	件 / 年	7	7	7	7	7
地域貢献	回 / 年	5	5	5	5	5

※ 削減率は、毎年0.3%とした。

※ 電力使用量 排出係数は、0.378Kg-CO₂/Kwhとした。

環境目標の実績

1) 本年度実績

項目	単位	基準年	26年度			達成度合			
		H25.6～H26.5	前年実績	目標	実績	前年との比較		目標との比較	
			H25.6～H26.5	H26.6～H27.5		評価	差	評価	差
CO2 排出量	Kg-CO ₂ / 年	133,289	133,289	132,800	118,938	○	-14,351	○	-13,862
電力使用量	MJ / 年	1,863,237	1,863,237	1,857,600	1,607,087	○	-256,150	○	-250,513
7月～9月の平均気温	℃	27.0	27.0	—	25.8	○	-1.2	—	—
7月～9月の購入電力	kWh	62,025	62,025	—	52,346		-9,679		—
燃料	MJ / 年	918,545	918,545	915,700	851,471	○	-67,074	○	-64,229
(内) ガソリン	MJ / 年	870,398	870,398	—	803,585	○	-66,813	—	—
車両台数	台	20	20	—	20		0		
総走行距離	Km	348,662	348,662	—	352,841		4,179		
ガソリン消費量	L	25,156	25,156	—	23,225		-1,931		
燃費	Km / L	13.9	13.9	—	15.2		1.3		
上水使用量	m ³ / 年	1,458	1,458	1,450	1,380	○	-78	○	-70
廃棄物排出量	t / 年	10.2	10.2	10.1	7.7	○	-2.5	○	-2.4
グリーン購入量	品目	5	5	5	5	○	0	○	0
事務用紙使用量	t / 年	4.9	4.9	4.8	4.9	△	0.0	△	-0.1
環境配慮型の設計	件 / 年	7	7	7	7	○	0	○	0
地域貢献	箇所 / 年	5	5	5	7	○	2	○	2

電力使用量 排出係数は、0.378Kg-CO₂/Kwh とした。

(2) 環境活動計画の取組結果とその評価

期間：平成26年6月～平成27年5月

項目		活動内容	担当者	取組結果	評価	評価 ・ 指示
CO2排出量削減	燃料使用量削減	エコドライブの励行	部内安全運転管理	アイドリングストップ・タイヤの空気圧・不要な荷物を積まない等を行った	○	アイドリングストップは徹底できておらず、周知を強化する
		適正な車両整備	総務課	3ヶ月に一度の定期点検・定期的なオイル交換・月に一度の洗車を行った	◎	計画どおり実施されている。
	電力使用量削減	エアコンの温度設定(冷房28℃ 暖房20℃)	LE委員	エアコンの温度設定をこまめに調節した	○	デマンド監視が効果的であった
		屋上散水(夏期)によるデマンド管理	総務課	水道水を使いすぎないよう、こまめに調節しながら常に濡れている状態にした	◎	良くできており効果があった
		不要時の消灯	LE委員	使用していない部屋の消灯・昼休みの消灯を実施した	◎	良くできており習慣化している
		照明機器・エアコン・窓の清掃	火元責任者	年末に実施	◎	継続する
		充電式電池を常備し、乾電池の使い捨てを廃止	総務課	主にデジタルカメラやパソコンマウスの乾電池として利用された	○	更に周知し、継続する
		LED照明機器へ取り替え(1F 3F 4F)	総務課	1F 3F 4Fフロアの照明機器を全てLEDに切り替えた	◎	2Fフロアも含めて、全社LED化完了
	旧型エアコンを最新の省エネタイプに更新	総務課	全社のエアコンを省エネタイプに更新した	◎	灯油ストーブの併用は続けること	
用水使用量削減 (排水量削減)		手洗い・洗い物時の日常的節水の励行	LE委員	適正化の指導	○	継続する
廃棄物削減		分別ボックスの設置	LE委員		○	継続する
		裏紙使用	LE委員	コピーの裏紙使用・メモ帳に使用した	◎	ミสปrintの削減も目指すこと
グリーン購入		エコマーク商品の積極的購入	LE委員	社有車の買い替えに際して、ハイブリッド車を採用した	○	省エネに貢献している 範囲の拡大を検討する
事務用紙使用量削減		社内LAN、データベース等の利用による文書の電子化	LE委員		○	電子化の効果が出ている 更に推進のこと
		裏紙使用				
環境配慮型の技術提案		環境配慮型の設計	部門長	7件の業務を実施した	○	継続する
地域貢献(清掃活動)		各所で、3回／年 実施する	部門長	予定どおり実施した	◎	継続する
		徳島協働の森づくり事業への参加	総務課		○	継続する

次年度の取組内容

期間：平成27年6月～平成28年5月

項目		活動内容	担当者	取組内容	評価	見直し
C O 2 排出量 削減	燃料使用量 削減	エコドライブの励行	部内安全運転管理者	アイドリングストップ・タイヤの空気圧・不要な荷物を積まない等を行う		
		適正な車両整備	総務課	3ヶ月に一度の定期点検・定期的なオイル交換・月に一度の洗車を行う		
		ハイブリッド車の導入を促進	総務課			
	電力使用量 削減	エアコンの温度設定（冷房 2 8℃ 暖房 2 0℃）	L E 委員	エアコンの温度設定をこまめに調節する		
		屋上散水（夏期）による電力使用量節減	総務課	屋上の散水により社屋内部の温度上昇を抑える。		
		不要時の消灯	L E 委員	使用していない部屋の消灯・昼休みの消灯を実施する		
		照明機器・エアコン・窓の清掃	火元責任者	年末に実施		
		網戸の取り付け、活用（2F 3F）	総務課			
充電式電池を常備し、乾電池の使い捨てを廃止	総務課					
用水使用量削減 （排水量削減）		手洗い・洗い物時の日常的節水の励行	L E 委員	適正化の指導		
廃棄物削減		分別ボックスの設置	L E 委員			
		裏紙使用	L E 委員	コピーの裏紙使用・メモ帳に使用する		
グリーン購入		エコマーク商品の積極的購入	L E 委員			
事務用紙使用量削減		新しいワークフローシステムの導入により文書の電子化を促進	システム管理責任者			
		裏紙使用	全社員			
環境配慮型の設計		環境配慮型の設計	部門長	設計業務の中で環境配慮型の工法を提案していく		
地域貢献（清掃活動）		各部で、3回／年 実施する	部門長			
		徳島協働の森づくり事業への参加	総務課	カーボンオフセット		

環境関連法規制等の遵守状況

最新版確認日：平成27年6月1日

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次のとおりである。

適用される法規制	遵守状況
環境基本法	遵守
グリーン購入法	遵守
地球温暖化対策の推進に関する法律	遵守
環境配慮事業促進法	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	遵守
特定家庭用機器再商品化法	遵守
フロン回収破壊法	遵守
浄化槽法	遵守
徳島県地球温暖化対策推進条例	遵守
徳島県生活環境保全条例	遵守
消防法	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の定期評価の結果、環境関連法規制等の逸脱はありませんでした。

また、過去３年間にわたって違反や訴訟もありませんでした。

代表者による評価と見直し

*平成 26 年度の環境活動結果

- ① CO2 排出量については、前年度実績及び目標値より大幅に削減
 - ② 上記にかかわる、社用車のガソリン使用量及び電力使用量についても、前年度実績及目標値より大幅に削減
 - ③ 上水使用量、廃棄物排出量については、僅かであるが前年度実績及び目標値をクリアーしている
 - ④ グリーン購入量、事務用紙使用量については、ほぼ横ばいである
 - ⑤ 環境配慮型の設計については、施策が防災・減災、老朽化・長寿命化事業へとシフトし、案件が減少傾向にある
 - ⑥ 地域貢献活動は、積極的に取り組んでいる
- 以上より、全社員による環境活動は順調に成果を挙げていると評価する。

*「環境方針」[環境目標] 及び「EMS（環境経営システム）」

有効に機能していると評価されるので継続して運用する。

*今後の取り組み

- ① 当社業務範囲は、オフィス及び現場に於ける種々の環境負荷要因があり、引き続き広範な環境活動に取り組むこととする。
- ② CO2 排出量の削減にかかわる、ガソリン使用及び電力使用の削減量は、各年度の業務量の影響が大きいため、評価にあたり業務量の変化（原単位）を考慮する等、工夫を要する。
- ③ 活動状況の一層の見える化を行い、全社員の協力のもとに取り組みの充実を図ることとする。

平成 27 年 5 月 31 日

(株)フジタ建設コンサルタント

代表取締役 藤田定吉

参考資料

全館の照明をLED化



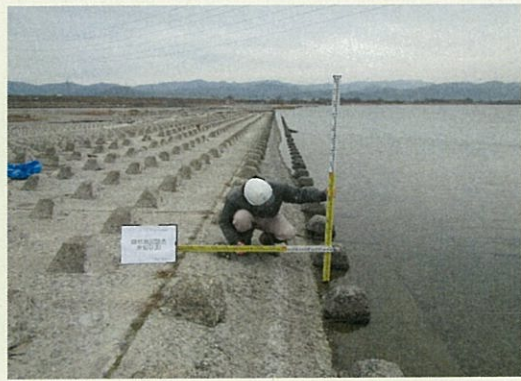
全館の空調機を省エネタイプに更新



環境配慮型の設計・調査業務

1	徳島県東部県土整備局（徳島）	H25 勝浦川河川環境調査
2	徳島県東部県土整備局（徳島）	H25-26 園瀬川環境調査
3	国土交通省 那賀川河川事務所	H26 那賀川管内空間利用調査
4	国土交通省 徳島河川国道事務所	H26 第十堰周辺現状調査
5	徳島県南部総合県民局（阿南）	H 2 6 阿土 大津田川 阿南・長生 護岸設計業務（1）
6	吉野川市	岡原多目的緑地公園実施設計業務
7	— — —	環境学習

	
勝浦川 河川環境調査(魚介類調査)	園瀬川 河川環境調査(植物調査 移植)

	
那賀川管内空間利用調査	第十堰周辺現状調査(現地調査)

	
環境学習 出前講座	

社会貢献(清掃)活動

地域活動の内容	実施回数	場所
「アドプト・プログラム吉野川」	年/3回	今切川 左岸 応神大橋から下流へ600m区間
「ボランティア・サポート・プログラム徳島」	年/3回	一般国道11号 6.30kp～3.90kp上下
「徳島県OURロードアドプト事業」	年/6回	県道徳島鳴門線 北島町鯛浜地先 0.13km
「北島町アドプトプログラム」	年/3回	北島町鯛浜字西ノ須地先～大西地先 及び水神社公園
「徳島県OURロードアドプト事業」	年/3回	鳴門市大麻町東山田地先交差点 ～大麻町野神ノ北地先交差点 L=0.9km



アドプトプログラム吉野川



徳島県OURロードアドプト(北島町内県道)



ボランティアサポートプログラム(国道11号)



北島町アドプトプログラム



徳島県OURロードアドプト(鳴門市内県道)

平成26年度 CO2削減コンテスト(事業者部門) 調査

I 事業者概要

フリガナ フジタケンセツコンサルタント
事業者名(支店名等) 株式会社フジタ建設コンサルタント

フリガナ フジタ サダヨシ
代 表 者 藤田 定吉

主な業種 土木建築サービス業
事業者人数 (H26.9末時点) 88人

事業内容 建設コンサルタント 補償コンサルタント
測量 地質調査 計量証明
エコアクション21の認証を受け、環境に配慮した経営を行っている。

II 二酸化炭素排出量削減率(電気使用量【二酸化炭素排出係数(0.55)(kg-CO₂/kWh)】から算出)

	平成25年 ①	平成26年 ②	平成25年と 平成26年の比較 ③(②-①)	二酸化炭素 排出量削減率 ④(③÷①)
7月分の電気使用量(kWh)	21,960	19,529	-2,431	-11.1%
8月分の電気使用量(kWh)	23,430	17,904	-5,526	-23.6%
9月分の電気使用量(kWh)	16,635	14,913	-1,722	-10.4%
7月分~9月分の電気使用量合計(kWh)	62,025	52,346	-9,679	-15.6%
二酸化炭素排出量 (kg-CO ₂)	34,114	28,790	-5,323	-15.6%

III 取組内容

活動期間において、具体的に取組んだ節電(省エネ)活動、その他(省資源)活動の内容を記入してください。

1.節電(省エネ)活動の取組

- ・屋上の打ち水により社屋の温度上昇を抑えた。
- ・エアコンの温度設定(冷房28℃)扇風機も併用した。
- ・照明器具をLED照明に取り替えた。(LED 200本)
- ・不在社員の頭上の消灯及び昼休みの消灯を実施した。
- ・節電啓発のポスターを自作し、社内各所に掲示した。
- ・充電式電池を常備し、乾電池の使い捨てを廃止した。



↑ 充電式電池



↑ 蛍光灯からLEDに切り替え ↓

2.その他(省資源)活動の取組

- ・コピーの裏紙使用・メモ帳に使用した。
- ・使い切ったコピー用紙や封筒などの紙類は、毎月古紙回収業者に引き取ってもらった。
- ・エコドライブの励行及び適正な車両整備(3か月に一度の定期点検や定期的なオイル交換)を実施し、燃料使用量の削減を心掛けた。
- ・クールビズを実施した。
- ・社内LAN、ワークフローの活用により文書を電子化し、紙の消費を減らした。
- ・太陽光発電設備を導入した。



↑ 太陽光発電パネル

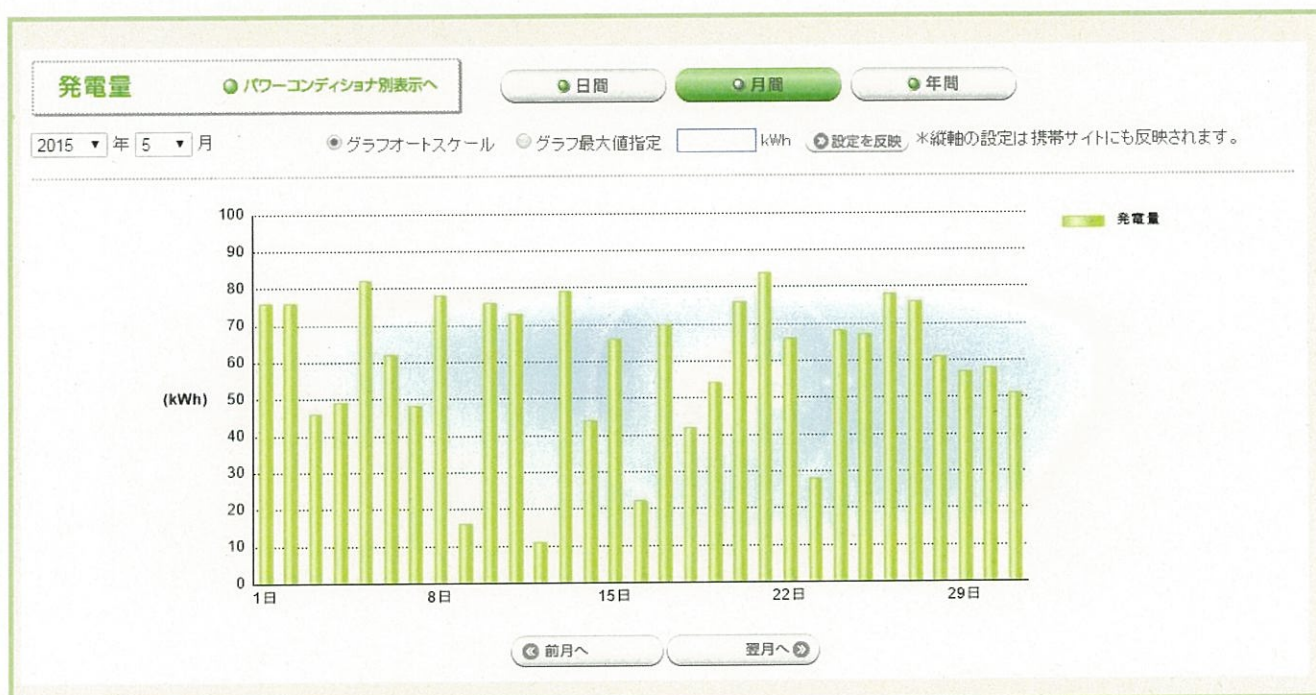
太陽光発電 診断レポート ↓

2014年 7月 の診断レポート		お客様宅のシステム容量は 11.8kW	
お客様宅の発電量[kWh] (※)は昨年値	診断完了日(※1)	システムの状況	環境貢献度(※2)
1,589 (—)	2014.8.1	診断の結果、太陽光発電システムは正常に稼働しています。	CO ₂ 排出削減量 801.6 kg-CO ₂ 成本の吸収量 572 本分 🌳🌳🌳🌳🌳🌳🌳



↓ 屋上の打ち水

太陽光発電施設



2015 年	5 月	の診断レポート	お客様宅のシステム容量は 11.8 kW	
お客様宅の発電量[kWh] ()内は昨年値	診断完了日(*1)	システムの状況	環境貢献度(*2)	
1,853 (1,925)	2015.6.1	太陽光発電システムに問題はありませんでした。	CO ₂ 排出削減量	934.8 kg-CO ₂
			成木の吸収量	66.7 本分

(*1) 当月の診断レポートは、翌月の20日5時に公開いたします。

(*2) CO₂の排出削減量は1kWhあたり0.5045kg-CO₂で算出しております。成木1ヶ月の吸収量は、林野庁「地球温暖化防止のための緑の吸収対策(H14)」による60年生のスギ1本あたり年間1.4kgのCO₂を吸収するとして換算しております。また表中の大きな木のマークは成木10本分、小さな木のマークは成木2本分を示します。